

9月22日に第2回愛育園運動会を開催しました。子ども達がグラウンドに躍動しました。



応援合戦

園長 藤本光世



長野県の高校の文化祭では、どの学校も目玉となる行事を持っています。たとえば、長野高校では映画（ビデオ）作り、クラス個展、屋代高校では仮装大会、松本深志高校では灯籠づくり、上田高校ではアンデパンダン展などです。

もちろんこの他にも様々な催しがあります。運動会や文化クラブの発表、展示発表、合唱コンクール、音楽クラブ発表、後夜祭などです。でも、学校全体が力を合わせて行事の創造を競い、時間をかけて準備するのが目玉行事です。これが、各学校の文化祭の特長となり、彩が付き、盛り上がります。

九州の高校の文化祭には、応援合戦があることを知っていました。それは、クラスが一丸となった集団パフォーマンスで、何よりも晴天のグラウンドを一杯に使い、思い切り体を動かし、心をつ

（平成 27 年 10 月 10 日発行 月刊「円福」471 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可）

にして全員が揃った、見事な集団演技を見せてくれることに、大きな魅力を感じていました。きっと、クラスの団結と友情と思い出と心の解放になるだろうと思いました。それは、きっと人生の力となり、受験でも力となるだろうと思いました。長野県の高校でもやりたい、私は心底そう願っていましたが、残念ながら各学校の伝統もあってできませんでした。

青谷副園長は、九州の県立光陵高校の出身で、応援合戦を経験していました。しかも体育の教師を目指したくらいですから、組体操や集団演技の構想を立案ことができます。せっかくやるなら子どもたちを動かして良いものやろうと、願いを持っています。昨年の第一回愛育園運動会や愛育園祭でそれが結実して、素晴らしいパフォーマンスを創りあげることができました。今年は、2 回目となりさらに発展し充実したのです。

私たちの仕事は、子どもを良い運命に乗せることです。それは、簡単にできることなのでしょうか。少し振り返れば分かるように、それは実に難しいことです。不可能と言っていいほど難しいことです。でも、私たちは児童養護施設の養育の専門家ですから、やらなければなりません。その為に、自らの力量をつけなければなりません。人としてのレベルをあげなければなりません。施設も養育力量をつけ、養育レベルをあげなければなりません。



そのための愛育園の具体的な取り組みの一つが、行事の創造なのです。集団を生かし、家庭ではできない集団の力を使うことです。昔、教頭をしていた頃の研修で、先輩校長から「日本人は、論理ではなくて環境で動く。」と言われたことが妙に頭にあります。施設の生活で環境とは、集団生活のことです。集団生活は、悪い方向に作用する危険性があります。一人の暴君によりずたずたに、がたがたにされることがあります。力のピラミッドにより、子ども同士の理不尽な力関係がはびこり、下位に位置した子どもは、強い子の暴力から自分を守るために汲々とし、職員に反抗することにすべてのエネルギーを注ぐ構造ができる可能性があります。そうなった施設の卒園生は、悪い運命の循環の中で一生を送ってしまうのです。なんと不幸なことでしょうか。私は職員室の椅子の後ろに、「狭き門より入れ 滅びにいたる門は大きく その路は広く 之より入る者多し 生命にいたる門は狭く その路は細く 之を見出す者少なし」と掲示して、職員に伝えるようにするとともに、私自身を励ましています。滅びにいたる門に入るのは実に簡単です。「滅びにいたる」とは悪い運命の循環に入ることです。この仕事に入ってそのような人々を数多く見てきました。ところが、生命

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

にいたる門に入るのは、実に狭く、進むのは厳しく、見出す者がほとんどないのです。いかに見出すのが難しく進むのが厳しくても生命にいたる門に入り進むことこそ、子どもを良い運命に乗せることです。具体的には、力のピラミッドを潰し、すべての児童が目標に取り組む良い集団作りをし、その雰囲気小さな子供にまで敷衍することです。それが子どもを良い運命に乗せる唯一の方法とさえ、私は思います。

当園の副園長、主任保育士、ホーム長とそれを支える職員は、それを知っているのです。だから、運動会の集団演舞の創造に労を惜しまないのです。時間を尽くすのです。夜遅くまで頑張ってくれるのです。子どもたちが、みんなのために準備し、みんなのために一緒に練習し、みんなのために尽くすことができる人間になり、立派になっていくことを目の当たりに見るからです。

第2回愛育園運動会のカラーガードは、実に立派な集団演舞になりました。その様子は、紙面から感じ取っていただけるとありがたいです。ホームページにカラー写真とビデオを掲載しました。是非ご覧になってください。

お願い 雑巾又は、雑巾に使用する生地のご寄付を頂けるとありがたいです。愛育園では体育館や児童棟を雑巾がけでお掃除しています。雑巾はボロボロになるまで使うのですが、不足がちです。なにとぞよろしくお願いいたします。

第2回愛育園運動会を終えて

副園長 青谷 幸治

去る9月22日晴天の中、第2回愛育園運動会が開催されました。昨年度は全てが初めてのことばかりで計画から練習、本番まで手探りで行いました。今年は昨年の反省や課題もはっきりしていたこともあり8月下旬から早めの準備ができました。紅白のメンバー発表や種目の発表が早い段階でできたことで子どもたちの運動会への気持ちも高まり、やる気が伝わりました。毎日夕方はマラソン練習、夜は遅くまで応援合戦の練習と職員と子どもたちが一緒になって作り上げる姿があり、日に日に上達し完成していく様子がわかり子どもたちの熱心に取り組むことができました。

なかなか学校ではクラスの取り組みに入りづらい、部活でも活躍もできない中で自分の役割や自分の得意なこと、力を合わせて取り組む等が欠けている子どもたちが多く中で愛育園運動会を開催することで子どもたちに学ばせたいこと、経験させたいこと、そして将来に渡って心に残る思い出をこの運動会を通して作り上げることができました。特に中高生が職員と一緒に運動会を絶対成功させたという思いで毎日取り組んできたことが大きな財産になりました。本番だけ参加するのではなく準備から片付けまで誰一人として弱音を吐くことなく頑張れたことを誇りに思います。また小学生がその姿を見て来年は自分がという思いにもなれました。

暑い中、一日中子どもたちの勇姿を応援していただいた小中の校長先生をはじめ西横田区の皆さまには大変感謝しております。ありがとうございました。西横田区の奥様から「この愛育園運動会を皆に見せてあげたい」とおっしゃっていただきました。ただの園内行事でなく、少しずつ社会に開かれた行事になってきたことを嬉しく思いました。これからも行事が常に子どもたちの心を育て

(平成27年10月10日発行 月刊「円福」471号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

るものであってほしい。毎日の生活のはりや目標になるように取り組んでいきたいと思います。先生方もお疲れ様でした。

第二回愛育園運動会

あおぞらホーム長 富沢正樹

昨年の第一回に引き続き、第二回愛育園運動会が開催されました。子ども達の様子なのですが、去年の一回目がよほど楽しかったのか、一か月前から運動会の事を伝えたと、大騒ぎしながら喜んでいました。そして、去年より練習に向かう姿勢が真剣で、当日までにたくさんの頑張る姿が見られました。

マラソンは、一ヶ月間、毎日3キロを走り込んだのですが、去年は日によって力を抜いてしまう子がどうしてもいたのですが、今年は意欲的に走る子が沢山見られました。というより、ほぼ全員が、「ライバルは昨日の自分」と自己ベストを目指して必死の形相でマラソンに取り組んでいました。

また、愛育園運動会の最大の特徴は応援合戦にあるのですが、今年は新たにカラーガードという、音楽に合わせて、大きな旗を全員で振る

ダンスを取り入れました。非常に難しい課題を用意してしまったので、練習を開始してからすぐに、「間に合わないかも」と思ったのですが、やはり子ども達の力はすごく、投げ出さず何度も何度も練習を繰り返して当日まで頑張っていました。

その他にもリレーやムカデ競争などの練習も行なって、運動会の一ヶ月前は練習と準備に明け暮れていました。

そんな充実した日々を過ごして迎えた運動会当日。最高の天気恵まれました。テントを張ったり、入場門を作ったり、トラックを作ったり、子ども達が協力的なので、あっという間に、ただのグラウンドが運動会の会場になってしまいました。

入場行進から始まって、種目以外の所でも、行動がキビキビしている姿があり、私の目には、子ども達が「好きな事、得意な事だけ頑張っている姿が、むしろ、自分の力を出し切る為には苦手



開会式は10時からですが、その前の会場作りも子ども



な事も一生懸命やろう」という姿に映りました。

その後も、自分の力を思う存分に発揮して、全力で取り組む姿が各所に見られ、応援合戦のカラーガードでは、緊張を集中力に変えて、見事に旗をそろえる事ができました。終わった後から言えることかもしれませんが、難しい課題を用意して良かったと思います。

来賓の方々にも、子ども達の努力の成果を見て頂けてありがたく思います。

来年の第3回愛育園運動会は、さらにさらにパワーアップした運動会にできるように、今後も子ども達と日々を過ごしていきたいと思っています。

第2回愛育園運動会

主任保育士 石崎 早織

9月22日、天気にも恵まれ無事第2回愛育園運動会を開催することが出来ました。当日を迎えるまでに子ども達もマラソンや児童対抗リレー、百足リレーなど日々練習を積み重ねてきました。また今年もそれぞれの学年等に分かれ応援合戦も行いました。今年の応援合戦では中高生全員と職員か一つとなり、カラーガードに挑戦しました。初めての試みだった為、なかなかうまく旗を回すことが出来ず、苦戦している児童もたくさんいましたが、それでも一生懸命練習に取り組んでいました。また子ども同士で教え合う姿があったり、私も子ども達から一つ一つ丁寧に教えてもらった一人でもあります。

全員で旗をきれいに合わせる事が難しく、何回も何回も繰り返し練習を行ってきました。そのおかげか本番は練習の成果も発揮され、全員の心が一つとなり、素晴らしい応援合戦になったと思います。

マラソンの競技では一カ月前から毎日練習に取り組んできました。子ども達の中にはマラソンが得意な子も



いれば不得意な子もいます。また高学年になると3キロを走る為、最初から「走るのが苦手だからな～」という声もチラホラ聞こえてきていました。まずは自分のペースでいいから走り切ってみようとして日々声をかけ続けると、だんだんとタイムが縮まっていく嬉しさだったり、走る距離に慣れてくると、苦しそうに走っている子どもがほとんどいなくなってきました。私の担当児童の小1のMちゃんもその中の一人です。Mちゃんは2キロの距離に挑戦していましたが、最初は完走するにも20分以上かかっており、ゴールするのはいつも最後の方でした。それが練習を積んでいくうちに少しずつタイムが縮まるようになってきました。その頃から一生懸命練習に取り組む姿が見られ、本番では15分で完走することが出来ました。ゴール間近になると、歯を食いしばって、今にも泣きそうな表情をしていました。その表情を見て私自身も胸が熱くなり、泣きそうになりながらも「あと少し!!頑張れ!!」と大きな声で応援していました。ゴールするとMちゃんは満面の笑顔で、

やり切ったというとても清々しい表情をしていました。その表情を見た時、なんでも一生懸命やることで、子どもの気持ちが少しずつ変化していく事や、苦手な事にも最後まで挑戦し続けることで自信に繋がっていくことを改めて感じました。

今回の運動会でも中高生がとても積極的に準備等手伝ってくれ、運動会が成功したのも子ども達の力と職員の力が一つになる事が出来たからだと思います。次は施設運動会です。施設運動会でも子ども達の頑張っている姿をたくさん発見したいと思います。

愛育園運動会 保育士 近藤 典雄

9月22日いよいよ運動会が始まりました。この日のためにマラソンは1カ月前から中高の応援は二週間前から小学生も一週間前から準備をして当日を迎えました。

私は小学生の応援を中心になって見ることにしました。応援の練習を始める前に小学生を集めて今年も小学生で応援に参加してみないかと問いかけると、みんな「やりたい」「今年は何やるの」とこの話が来るのを待っていたかのようでした。今年には団長、副団長を六年生にお願いし三三七拍子と簡単な応援の振り付けをやり、組体操を一年生から六年生までいろんな技に挑戦しました。最初は大きな声で応援できるか、組体操の技もまだ無理かと心配でしたが日に日に上達運動会の前にはすべて完成する事が出来ました。

そして、いよいよ当日を向かえ衣装に着替えて本番がスタートしました。みんな緊張していないか、大きな声が出せるのか心配でしたが一瞬でその心配はなくなりました。子ども達は大きな声でハキハキとやっています組体操も全ての技が上手くいき大成功でした。この一週間少ない時間でしたが休みなく練習してきた成果が出ました。この頑張りに後に続く中高生も勇気付けられたと思います。

その後も競技が続き、全てのプログラムが無事に終了しました。今回の運動会は子ども達の可能性が無限大に大きいものだと感じる事が出来る運動会でした。この可能性を少しでも大きく育てて行



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

く事が大事なことでとも思いました。

愛育園運動会

保育士 佐々木 弘観

9月22日、季節はすでに秋ですがこの日は気温が28度近くまで上がり、秋晴れの快晴のもと第二回目となる愛育園運動会が行われました。今年から勤めさせて頂いている私にとっては初めての愛育園運動会でした。

9月に入り本格的に運動会の準備が始まると、正直、運動会を作り上げるという未知の事に不安が多いにありました。しかし準備が進むにつれ、だんだんと子ども達もやる気に燃え、ムカデ競争の練習やリレーの練習など、毎回大きな声で仲間を応援しており、毎日が本番さながらの雰囲気でした。真剣な子ども達の姿を見ていると、不安はいつの間にか「どんなに凄い運動会ができるのか」という期待に変わっていました。

部活やアルバイトなどで疲れている子も、3キロのマラソンを走り、夜は体育館で応援合戦の練習をして、毎日ヘトヘトになりながらも運動会当日に向けて精一杯練習していました。

運動会当日、子ども達と一緒に開始時刻の2時間前にグラウンドに行き、子ども達自らが走るトラックを子ども自身の手で作あげ、テントや机なども「これ運ぶの手伝って？」など言わなくても子ども自ら率先して運び、組み立てていってくれました。

愛育園で赤組と白組に分かれての運動会のため、みんなゆっくりしている暇も無く、次の競技の準備に取りかからなければなりません。その様な忙しい中でも、常に真剣な眼差しで声を張り上げて応援する姿や、満面の笑みで喜ぶ姿をたくさん見る事が出来ました。

子ども達自らで作上げるからこそ、やりとげた達成感や喜びも大きいと思います。心の底から楽しめる運動会。この第二回愛育園運動会は、私が経験してきた運動会の中で間違いなく一番素晴らしい運動会でした。

次の目標は施設運動会です。愛育園運動会では分かれていた赤組・白組が一つに団結して、もの凄いパワーが出ると思います。子ども達、職員同士、気持ちを一つにして頑張りたいと思います。

第二回愛育園運動会 児童感想

今年、応援合戦でカラーガードに挑戦しました。最初は出来るかどうかすごく心配だったけど、練習していくうちに、すごく上達していくのが分かりました。本番でもミス無くできて嬉しかったです。マラソンではR君に抜かれて、物すごく悔しかったです。施設運動会では絶対に勝ちたいです。僕が競技宣言で言った、「赤、白どっちが勝っても負けても、自分自身にだけは負けてはいけません」を達成できて良かったです。

高1 H.S

応援合戦で、大きな声を出せました。マラソンでは小学生の部で2位になりました。マラソンは毎日練習してきたので早くなりました。白組が勝てて良かったです。

小2 Y.Y

一番心に残った事は応援合戦です。大きな声で応援できました。応援合戦の中でやった組体操では、乗りかかる場所を間違えてしまって、とても悔しかったです。けれど、その他の技は上手くで

(平成27年10月10日発行 月刊「円福」471号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

きました。

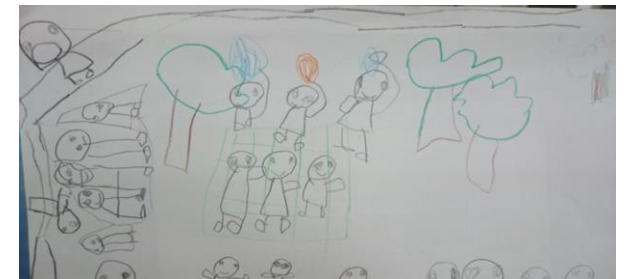
小4 A.H

運動会で頑張った事はマラソンです。一か月間しっかり練習してきました。本番で、児童総合5位、小学生の部1位になりました。施設運動会でも頑張りたいです。

小5 T.K



マラソンをしている時、宝物を探している時の絵です。お客さんも一杯来てくれました。努力賞も貰えて、園長先生からも金メダルをもらい嬉しかったです。(年長 K・F)



今日は運動会をやりました。応援合戦をやっても気持ち良かったです。組み体操もしました。組み体操でブリッチをやったり、ヨットもやりました。その次に倒立をやりました。その次は中高生のダンスを見て、とても感動したし、心が温くなりました。男の子の中高生もかっこ良かったです。(小2 A・N)

9月22日に愛育園に来て、初めての運動会に出ました。愛育園運動会は練習した時からとても忙しく、学校の行事等も重なり一つ一つの時間割が難しかった事です。またそれに関しても後悔している事があります。それは忙しいという理由で練習を疎かにしてしまった事です。みんな忙しい中自分の事しか考えていなかったこと反省しています。運動会当日は反省を踏まえ一つ一つの競技に全力でやることと白組が勝てるようにしたいと思いました。中でも一番頑張った事はマラソンです。走り始めは勢いよく行ったけど、後で息が上がってきて途中休んでしまいました。結果12位で終わりました。愛育園運動会は終わったけど10月4日に施設運動会があるので、それに向けまた練習を精一杯やり、賞状をもらうときは自分も含め1位～愛育園の人が並んでは入れたらいいな

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

と思います。(中2R・A)

敬老の日の会 保育士 武井萌

21日、敬老の日の会が行われました。毎年、西横田地区の方々に集まっていたいただいており、小学生と幼児さんが歌とペン立てをプレゼントしました。なかなか感謝の言葉を伝えることが苦手な子いますが、皆、おじいさん、おばあさんお一人お一人に言葉を添えながらお渡ししました。普段から地域の方にはたくさんの支援を頂いていますので、こういった機会に日頃の恩返しができた事と思います。これからも地域の方々には子ども達の成長を見守っていただけたらと思います。また、日頃から周りの方々へ感謝の気持ちが持てるような子ども達に成長していった欲しいなと感じる、暖かい会となりました。

アルプスピアホームさんとの交流会

ホーム長 富沢正樹

9月6日、アルプスピアホームさんとの交流会を行いました。この交流会はアルプスピアホームさんが、様々な遊びを考えてくださって、男の子は体育館でバスケットをしたり、外で水鉄砲遊びをしたり、女の子や小学生はバルーンアートや木工遊びをしたり、子ども達がとても楽しみにしている交流会です。

今年で3回目の交流会、アルプスピアホームの担当の方には何度も足を運んでもらい念入りに打ち合わせを重ね当日を迎えました。3回目ともなると、子ども達も知っている人を見つけて、積極的にコミュニケーションをとったり、バルーンアートの得意な方を覚えていて、作ってもらいたい物を予約するために行列を作ったりするなど、スタートから交流会を楽しんでおりました。

今年は、共同制作として、大きな布に筆で字を書き、皆の手形を押してフラッグを作ったりもしました。お昼にはバーベキューをして、おいしいお昼御飯を食べました。色々と趣向を凝らして下さり、かき氷やポップコーンまであって、子ども達は大満足でした。

また、ただしてもらえばかりが愛育園の子たちではありません。前日にはお礼のクッキーをみんなで作って用意し、お別れの時に感謝の言葉と一緒に渡しました。アルプスピアホームさんの方の中には、このクッキーをととても楽しみにして下さっている方もいるそうで、お礼を言われている子ども達の表情もとても嬉しそうでした。

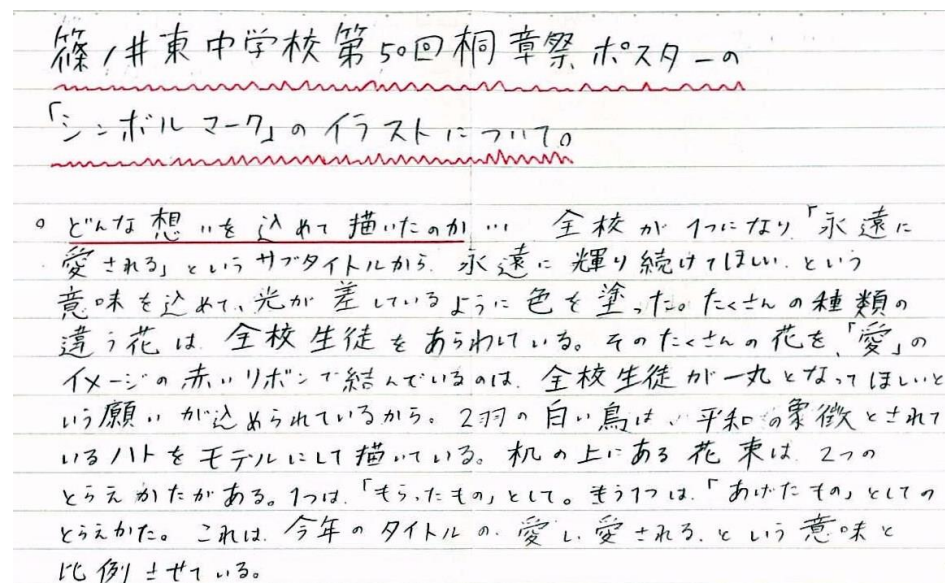


(平成27年10月10日発行 月刊「円福」471号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

毎年の恒例行事となりつつある、この交流会。来年もお互いにとって良い時間となればと思っています。アルプスピアホームの皆さま、ありがとうございました。

篠ノ井東中学校文化祭(桐章祭)ポスター

当園の児童の作品(イラスト)が篠ノ井東中学校の文化祭(桐章祭)のポスターやパンフレットに選ばれました。イラストに込めた想いを児童に寄せてもらいましたのでご覧ください。



あおぞらホームたより 10月

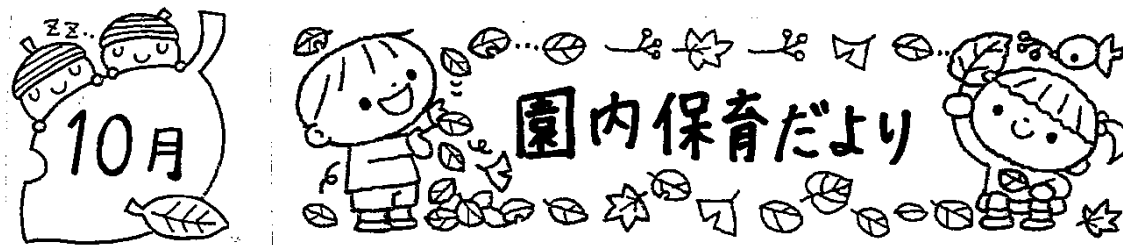
保育士 石黒 玄章

暑かった夏もいつの間にか過ぎ去り、季節の移ろいを肌で感じられるこの頃、あおぞらホームの子供たちは元気に過ごしています。

9月は園内外、さまざまな行事が行われました。まず園内ではアルプスピアホーム様による交流会が今年も行われました。子供たちはアルプスピアホームさまの職員の皆さまと一緒に遊び、食事をして有意義な時を過ごしました。また、敬老の日には地区のお年寄りの皆さまと交流を行い、手作りのクッキーをプレゼントしました。そして、愛育園大運動会です。昨年に引き続き開催されましたが、競技の一つマラソンの練習を全員、下校後に毎日行いました。今年はタイムが一目で解るように張り出したところ、小中高校生各々タイムが一目瞭然と飛躍的に伸び、それに合わせ職員も一緒に練習に参加して、応援合戦の練習も併せ職員・児童が一緒になって大成功で運動会は幕を閉じました。

学校の行事では、乗り物体験や社会見学、宿泊登山や東京見学、スポーツ大会と各学年ごとに大きな行事もしっかりと参加して思い出を作りました。

来月は愛育園祭です。この勢いで職員、児童が一丸となって更に良いものを作っていきます。



涼しさを感じる虫の声に、秋の深まりを感じる頃となりました。

9月8日(火)には、夏の間、沢山遊んだプールに感謝し、プールじまいを行いました。あいにくの天気ど、プールには入れませんでしたが、園長先生にもいらして頂き、1人ずつ頑張ったことや出来るようになったことを発表しました。「ワニ歩きが出来るようになった!」「市民プールの大きなすべり台を1人ですべった!」「泳げるようになった!」などなど...改めて、この夏の成長を感じる事ができました。また来年は新しい目標をもって楽しくプール遊びが出来るといいですね。



10月の行事

- ・施設運動会
- ・愛育園祭

10月のねらい

- ・様々な運動遊びをし、身体を動かす楽しさを味わう。
- ・愛育園祭の発表を通して、元気に台詞を言ったり、歌を歌えるようになる。
- ・戸外に出て、秋の自然に気付く。

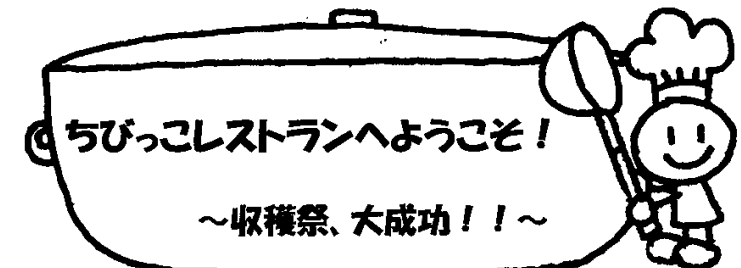
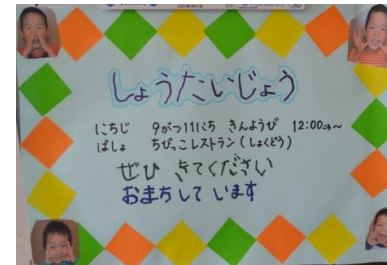




☆ 敬老の日 プレゼント作り ☆

地区の敬老会の皆様に日頃の感謝の気持ちを込めて、プレゼントを作りました。今年は、小物入れ♡めがねやペンなどを入れて使ってもらえるようにしました。子どもたちは土台の牛乳パックのまわりに上手に布を見貼りました。「おじいちゃんや青いかなあ」「おばあちゃんや赤色が好きかなあ」と使っている時の様子を思い浮かべながらワクワクした気持ちで作っていたようです。「いつまでも元気でいてね!どうぞ」と渡す練習もバッチリ。喜んでもらえるのが嬉しいですね!





園内保育では、春の畑のお世話に日々、取り組んでまいりました。その畑でたくさん収穫できたジャガイモ、キュウリ、ナス、トマト、ピーマン。これらを使って、収穫祭のお料理を作ろう!という事で、レストランを開いて日頃お世話にしている園の先生方をご招待することにいたしました。メニューは、カレーライスとサラダに決定。材料は、「トッピングにベーコンやチーズも!」という子どもたちからのアイデアも取り入れながら決まりました。

『ちびっこレストラン』の開店に向けて、招待状をお渡ししたり、レストランの飾りや看板作りなど、大忙しでしたが楽しめまわした。看板の文字は子どもたちが書き、できあがると「龍だ! (文字が) 龍にできる!」という子も。台詞もとても味のある看板ができました。

収穫祭の前日には、近隣のスーパーに行き、とても嬉しそうに絵カードを見ながら材料を探してお買い物。また、お客様をお迎えする挨拶や料理の渡し方の練習もしました。



はいはい、収穫祭当日です。エプロン・三角布・マスクを身につけた「ちびっこコックさん」たちの目が輝いています。どの子も期待と、はいはいです。まず、年長さんカレーライスのお米とぎです。「先生、かきまぜたら、お水が白くたふた!」の発見も。保育者の説明をよく聞き、1粒もこぼさずに上手にとぐことができた子も。たくさん野菜は、年長さん、年中さん、年少さん、みんなと切りまわす。保育者と一緒にお手拭きで... (はじめは恐ろしかった子も、だんだん慣れていきます)。おいしいお料理ができあがり、さあ『ちびっこレストラン』の開店です!! お客様として先生方がたくさんおみえになりました。練習通りに「いらっしゃいませー!」と元氣にお迎えします。千切ったサラダと「どうぞ」とサラダを渡し、年長さんカレーライスの盛りつけも経験しました。どの先生からも「おいしいよ〜♡」と声をかけていただき、おかわりをして下さった先生もおらず、満足気な子どもたち。笑顔はいっぱいの収穫祭は、楽しく、おいしい、大成功!! でした。